阿南信用金庫
半期開示レポート

MINI DISCLOSURE 2026.9
ミニディスクロージャー誌

みなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援、ご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

阿南信用金庫は、毎年、経営内容についてディスクロージャー誌を作成し、また、上半期の現況をお知らせする目的で、この半期開示レポートを発行しております。

本年度の半期開示レポートもご高覧賜り、当金庫を従前以上にご理解いただければ幸せに存じます。

今後とも当金庫は、阿南市を主たる営業区域とする地域金融機関として経営の健全性・信頼性の向上に努め、みなさまのご繁栄と地域の発展のために役職員一丸となって努力してまいりますので、 なお一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。



阿南信用金庫の概要　(2026年9月末現在)

設　　立	昭和23年5月
会　　員	8,288名
出資総額	1,165百万円
役職員数	101名
本　　店	徳島県阿南市富岡町トノ町28番地14
店　　舗	8店舗

あなたの夢の応援団

Face to Face 阿南信用金庫

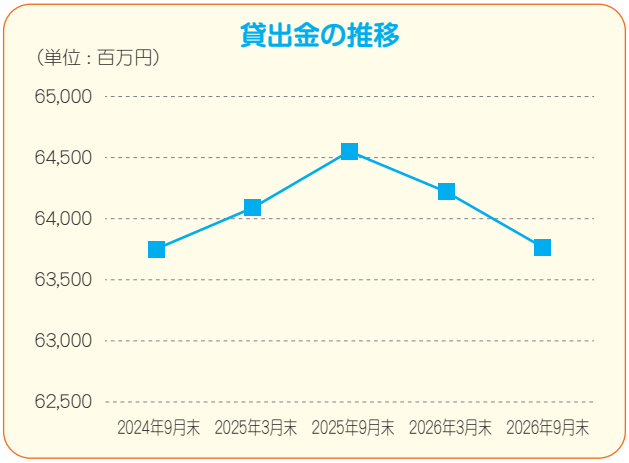
https://www.shinkin.co.jp/anan/

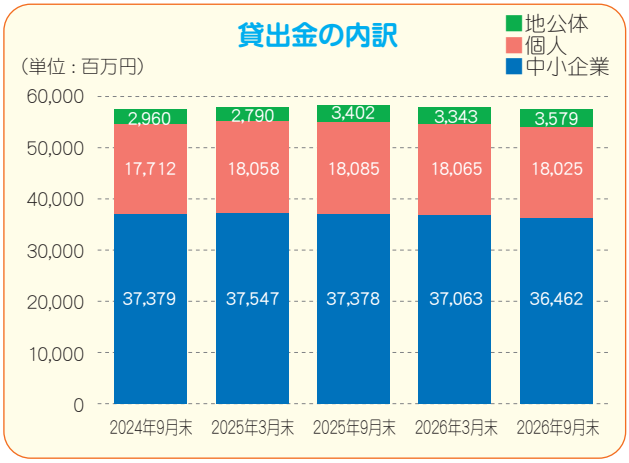
阿南信用金庫は地域の発展とともに成長しております。

業績ハイライト

貸出金

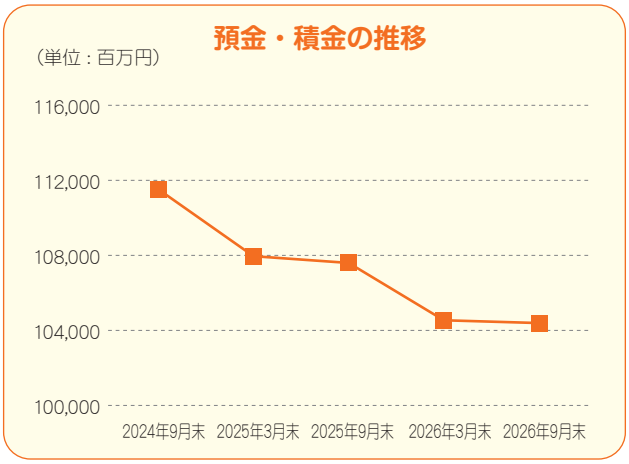
2026年9月期貸出金残高は、中小企業向け、個人向けが減少し、地公体向けが増加となりました。
前期末比は462百万円減少となりました。

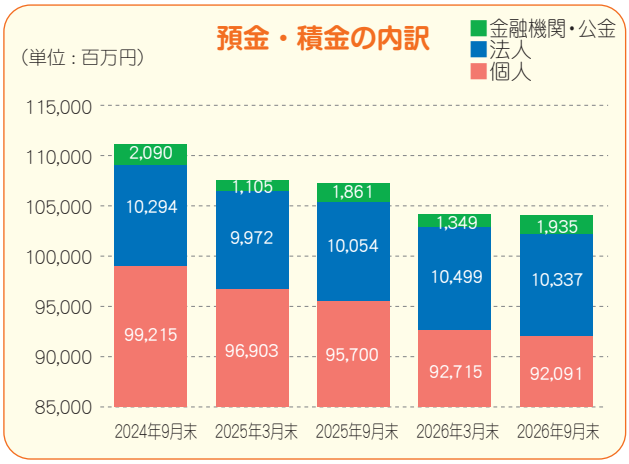




預金積金

2026年9月期預金残高は、法人向け、個人向けが減少し、金融機関・公金向けが増加しました。
前期末比は151百万円減少となりました。





損益の内訳

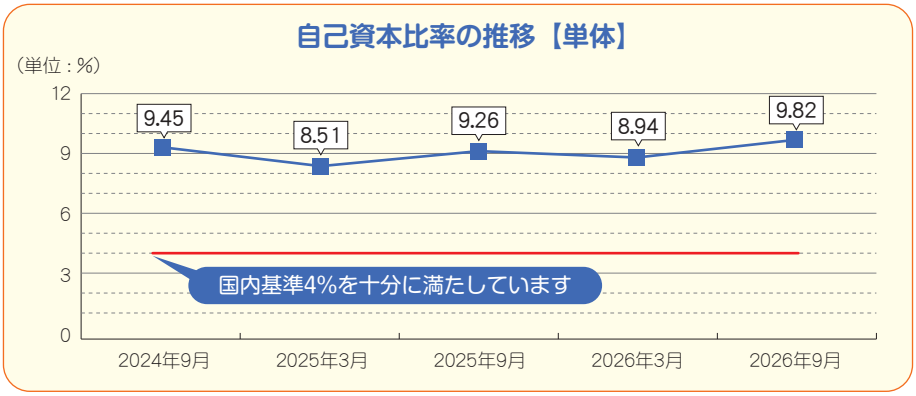
（単位：百万円）

	2026年9月末	2025年9月末	前年同月比
経　常　収　益	1,252	1,073	179
業　務　純　益	20	52	▲31
実質業務純益	20	52	▲31
コア業務純益	214	196	17
コア業務純益 （投資信託解約益除く）	211	183	27
経　常　利　益	351	262	89
当　期　純　利　益	314	246	67

※2026年度上半期（2026年4月1日から9月30日まで）の損益です。

〇業務純益……業務に必要な経費等を控除した利益で金融機関の基本的な業務に係る利益を示しています。
〇実質業務純益…業務純益に一般貸倒引当金繰入額を加えた、本来業務からの収益を表すものです。
〇コア業務純益…業務純益から国債等債券損益を差引し一般貸倒引当金繰入額を加えた、業務純益の本来部分を表すものです。
〇経常利益……業務純益に、業務外の損益の差を加減した利益で、金融機関の経常的な営業活動の成果を示すものです。
〇当期純利益……経常利益に、特別利益と特別損失の差を加減し、法人税等を控除した利益で、最終利益ともいいます。

単体自己資本比率



自己資本比率は、健全性を示す指標の一つです。
自己資本比率規制（国内基準）に基づく単体自己資本比率は、2026年9月末時点で9.82%となっており、国内基準である４％を十分に満たしております。

有価証券の状況

（単位：百万円）

その他保有目的有価証券	2026年9月末					2025年度〈参考〉				
	帳簿価額	時価	評価差額	うち含み益	うち含み損	帳簿価額	時価	評価差額	うち含み益	うち含み損
	21,583	19,301	△2,282	1	2,283	24,527	22,544	△1,982	27	2,009
株　　式	71	71	0	0	1	182	198	16	20	4
債　　券	13,782	12,293	△1,488	－	1,488	15,098	13,835	△1,263	0	1,263
そ　の　他	7,728	6,935	△793	0	794	9,246	8,511	△735	6	741

（注）2026年9月末の「評価差額」及び「含み損益」は、その時点の帳簿価額（償却原価法適用後、減損処理前）と時価との差額を計上しております。
なお、その他保有有価証券には時価のない有価証券（6百万円）も含まれております。

（単位：百万円）

満期保有目的有価証券	2026年9月末					2025年度〈参考〉				
	帳簿価額	時価	含み損益	うち含み益	うち含み損	帳簿価額	時価	含み損益	うち含み益	うち含み損
	9,402	7,151	△2,251	－	2,251	9,593	7,662	△1,931	－	1,931
債　　券	9,402	7,151	△2,251	－	2,251	9,593	7,662	△1,931	－	1,931
そ　の　他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

金融再生法ベースの債務者区分による開示（単体）

（単位：百万円）

2026年9月末		2025年度〈参考〉
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,264	2,401
危　険　債　権	3,687	3,738
要　管　理　債　権	292	294
正　常　債　権	57,850	58,076
合　　計	64,094	64,511

（注）上記の2026年9月末の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第4条に規定する各債権のカテゴリーにより分類しておりますが、集計方法については以下の点につき年度末に開示する計数とは異なるため、計数は連続しておりません。

1. 2026年9月末の「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」の金額は、同年3月末時点における債務者区分（※）を前提とし、同年3月末から9月末までに倒産、不渡り等の客観的な事実並びに債務者区分の変動等があった債務者について、当庫の定める自己査定基準に基づき債務者区分の見直しを行い、債務者区分の変更と認められる額を反映しております。

※ 債務者区分との関係
破産更生債権及びこれらに準ずる債権（実質破綻先、破綻先の債権）、危険債権（破綻懸念先）、要管理債権（要注意先のうち、利払いが3ヶ月以上延滞しているか、又は貸出条件を緩和している債権）

2. 2026年9月末の「要管理債権」の金額は、同年3月末時点における残高を前提とし、同年3月末から9月末の間に正常先、要注意先の債務者に対する債権のうち①新たに3ヶ月以上延滞となった債権、②新たに貸出条件を緩和したことを確認している債権を加算し、③ ①及び②に該当しなくなった債権、④「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に変更になった債権を減額しております。

なお、1. 2.における各債務者の債権残高については、9月末時点の残高を使用しております。

- 信用金庫の事業年度は、信用金庫法に基づき、4月1日から翌年3月31日までと定められており、正式な決算につきましては毎年3月31日に行っております。
- 本レポートは、仮決算に基づくもので、正式な決算によるものではありません。
- 損益と自己資本比率は、9月末時点における貸出金の償却・引当等を考慮し、算出しております。
- 本レポートに記載した各計数は、原則として単位未満を切り捨てて表示しておりますので、合計とは一致しない場合があります。